

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第 67 号

平成 26 年 7 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

沖縄や奄美地方では梅雨明けが発表され、岩手県の梅雨明け宣言も待ち遠しく感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

安倍総理 被災地を視察

大槌町

7月2日（水）、安倍総理は、東日本大震災津波からの復興状況を視察するため大槌町を訪問しました。

視察したのは、大ヶロ（おがぐち）二丁目災害公営住宅の建設現場、伝統技術「刺し子」を活用した事業を展開するNPO法人「大槌復興刺し子プロジェクト」の作業場、経営再建した水産加工施設の冷凍工場の3カ所で、安倍総理が岩手県下を訪問したのは、今回で4回目です。

視察後、安倍総理は、「復興に時間が掛かってはいますが、着実に前進してるなど実感しました。」と述べ、新たなファンド創設による資金面での企業支援の方針を示しました。



大槌復興刺し子プロジェクトを視察する安倍総理

水産加工施設を視察する安倍総理

総理コメント・写真：「首相官邸ホームページ」より引用

「いわて街の賑わい創り 復興市」開催！

宮古市

7月6日（日）、「第8回いわて街の賑わい創り 復興市 in みやこ田老」が宮古市のグリーンピア三陸みやこで開催されました。平成23年12月に始まったこのイベントは、町に賑わいを復活させ人々を呼びこもうと、沿岸被災各地で開催され、今回で8回目を迎えました。

会場には、「あまちゃん」で人気爆発した「久慈まめぶ汁」（岩手県久慈市）を始め、B級グルメ選手権で日本一を獲得した「八戸せんべい汁」（青森県八戸市）や、その他、横手焼きそば（秋田県横手市）、北上コロッケ（岩手県北上市）、いわてまち焼きうどん（岩手県岩手町）、住田ハラミ焼き（岩手県住田町）、西和賀ビスケットの天ぷら（岩手県西和賀町）など岩手県内外の美味しいご当地グルメ約20店が一堂に集合。

郷土芸能も披露されるなど、来場者は、食べ歩きと郷土芸能を楽しみました。



大勢の人で賑わう復興市

久慈まめぶ汁の販売も

平成26年【第2回】「いわて復興ウォッチャー調査」の結果を公表しました

岩手県は、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

これは被災した市町村に居住又は就労されている方を対象に、3ヶ月に1回実施するものです。

今回は、平成26年第2回目（平成26年5月実施）の調査結果から、主なデータを紹介します。

被災者の生活の回復に対する実感

「回復」または「やや回復」：55.8%（前回調査 55.9%）

▶前回調査と同水準。地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった（沿岸北部 59.5%、沿岸南部 47.3%）。

▶新築や公営住宅への転居が増えたという前向きな声がある一方、緊急雇用対策事業終了後の仕事の懸念や今なお仮設住宅に住む方々を心配する声も見られた。

地域経済の回復に対する実感

「回復」または「やや回復」：55.9%（前回調査 46.9%）

▶前回調査と比べ9.0ポイント上回った。

▶大型店の進出による雇用・消費拡大への期待や水産業の回復を前向きに評価する声がある一方、魚価の低迷や消費税の影響、仮設商店街の将来を不安視する声も見られた。

災害に強い安全なまちづくりに対する実感

「達成」または「やや達成」：23.3%（前回調査 19.6%）

▶前回調査と比べ3.7ポイント上回った。

▶防潮堤等の復興工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、早期復旧を望む声や工事の内容等が住民に十分伝わっていないといった声も見られた。

平成26年【第2回】「いわて復興ウォッチャー調査」

検索

いわて復興応援団(員)大募集中！



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料

東日本大震災津波から3年が経ち、復旧・復興事業が本格化している中、被災地域やアクセス道路においては、工事関係の大型車両等の通行が増加し、また、復興工事の進捗に伴い、道路形態や交通事情も日々変化しており、今後、交通事故の増加が危惧されています。

そこで、岩手県交通安全対策協議会では、今年度の運動の基本として「被災地域の交通事故防止」を掲げ、関係機関・団体等と連携し、交通安全運動を推進していくこととしております。

みなさん、交通安全に取り組んでいますか？

- ★人も車も自転車も「止まって確認」の励行を！
「事故を起こさない」だけでなく「事故に遭わない」ためにも、安全確認と、安全なスピードでの走行をしましょう。
- ★高齢者や子どもを交通事故から守りましょう！
夕暮れ時間や夜間外出時に反射材用品を活用しましょう。
乗車時はシートベルト、チャイルドシートを正しく着用しましょう。
- ★自転車も車両です。走行時は歩行者優先で、交通ルールを守りましょう！



心にゆとり 交通安全

岩手県交通安全対策協議会

正しい交通ルールを守る運動推進マーク

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第21回目は、松岡 雄也さんを紹介します。

PROFILE

東京都出身。大学生時代は、NPO 法人国際ボランティア学生協会（通称「IVUSA・イビューサ」）に所属し、ボランティアとして東日本大震災津波の被災地で活動を続ける。

大学在学中に「いわて復興応援隊」に応募し、平成25年4月より「いわて復興応援隊」の一員として復興まちづくり大槌株式会社に配属され、現在に至る。

被災地で何かできることを

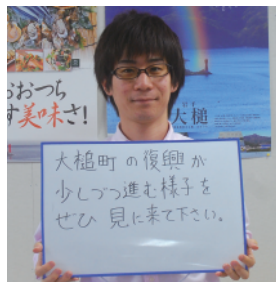
東日本大震災津波発災時、大学2年生だった松岡さんは、大震災後の平成23年4月くらいから月に1～2度のペースで被災地を訪れ救済活動を行っていました。

大学生として就職活動も行っていましたが、心のどこかで被災地の状況がありながら、東京で就職することに疑問を感じていることに気が

未来の

さんりく びと

復興まちづくり大槌株式会社
松岡 雄也
(まつおか ゆうや) さん



松岡さんからのひと言：
大槌町の復興が少いづつ進む様子をぜひ見に来て下さい。

付き、被災地で何かできることがないかと、インターネットで「いわて復興応援隊」を見つけ応募。採用が決まり、平成25年3月に大槌に来ました。

街の人々の顔があらたに見えてくる

現在は、大槌町のショッピングセンター・シーサイドタウンマストにある大槌町の情報プラザ（大槌町の復興情報を掲載しているブース）の運営業務をメインに行っている松岡さんは、「大槌町でも盛土がはじまり、前向きな雰囲気は感じています。ただ、1年でもっと変わのかなと思っていたので、進んだ印象はあまりないですね。」と、大槌の復興への印象について語ります。

「今、街のみなさんと一緒に中心市街地の復活のための提案を策定しています。工事が進み徐々に完成してくると、そこを中心とした街の人々の顔があらたに見えてくるのではないかと思います。」と今後の大槌の復興に期待を寄せていました。

岩手県の被害状況

平成26年6月30日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,672名 行方不明者：1,132名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 25,706棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年5月31日現在

- ▶義援金受付状況 約181億4,013万円（89,205件）
- ▶寄付金受付状況 約195億6,102万円（6,833件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約68億600万円（13,455件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第67号 平成26年7月15日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス